

事務事業評価表(既存事業)

コード 7-3-2	事務事業名 児童館施設整備事業	所管部課 児童青少年部児童課					
事務事業の概要	事務事業の目的 児童に健全な遊びを与え、又は情操を豊にするための児童館・児童センターを設置し、放課後児童の健全育成を図ることを目的とする。 その児童館の維持及び施設管理	総合計画上の位置づけ (政策)創造性の育つまちづくり (施策)子ども参加の促進(創2-1) (主要施策)児童館施設の計画的な整備					
	実施内容、実施方法 児童館施設の計画的な整備 児童館施設の維持管理	根拠法令等					
	事業開始時期 平成 16 年度	実施形態 <input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()					
評価指標の設定	活動指標名 児童館施設整備数	活動指標の考え方(定義) 計画的な施設整備(市内全14箇所のうち14施設整備予定)					
	成果指標名 施設整備進捗率	成果指標の考え方(定義) 施設整備進捗率(当該年度予算に計上された施設整備進捗率)					
事務事業データ		単位	14年度	15年度	16年度	17年度	
	事業費(A)		0	0	44,602	211,478	
	国庫支出金	千円					
	都支出金				7,000	24,685	
	地方債					136,900	
	その他				7,097	20,534	
	一般財源				30,505	29,359	
	所要人員(B)	人			1.00	1.00	
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	0	0	8,328	8,328	
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	0	0	52,930	219,806	
	単位当たりコスト (E)=(D)/(児童館施設整備数)	千円	0	0	3,780.71		
	歳入	千円					
	活動指標	目標値	施設			14	14
		実績値	施設			14	
活動指標	目標値						
	実績値						
成果指標	目標値	%			100	100	
	実績値	%			100		
成果指標	目標値						
	実績値						
事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	子育ての地域の拠点として、評価を受けている。 施設老朽化しており、整備をしてほしいと声がある。					
	国・都・他市・民間等 における類似事業	他市においても児童館がある。					
	運営上の制約条件・ 外部要因等	児童福祉法等の法令					

コード 7-3-2	事務事業名 児童館施設整備事業	所管部課 児童青少年部児童課
--------------	--------------------	-------------------

項目	評価結果	判断理由、説明等
事業所管部評価	実績 <input type="checkbox"/> 極めて良好 <input checked="" type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不十分 <input type="checkbox"/> 極めて不十分	483,780人の利用があり、地域住民、関係各機関からの評価が高い。 芝久保児童館、田無柳沢児童センターの整備を実施した。
	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 増大 <input type="checkbox"/> 変化なし <input type="checkbox"/> 減少、一部なし <input type="checkbox"/> かなり減少	少子化、核家族化により、子育て施設の拠点として必要であり、ますますの充実を期待されている。 また、中高生の居場所についての役割も期待されている。 施設が老朽化しており、整備が求められている。
	効率性 <input type="checkbox"/> 大きく改善 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	総合計画に基づき、整備・改修を実施している。 将来、改築の際には児童館再編成の視点を踏まえ、統廃合・合築等の検討が必要である。
	公平性 <input type="checkbox"/> より充実 <input checked="" type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり <input type="checkbox"/> 抜本的な問題あり	市内に13館1分室があり、数は充足しており、公平性に問題はない。 老朽化の進み方をみながら、施設整備を行う。
	総合評価 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	今後、特色をもった機能を付加した児童館と従来の地域型児童館に再編成していく。 その方針及び施設の老朽化等、総合的に考慮し、整備していく。

17年度における改善点	北原児童館の建替えを実施する。 田無柳沢児童センターを中高生対策としての整備を行う。
-------------	---

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止	現在の計画どおり、児童館施設の整備を行う。
--------	---	-----------------------

評価の視点

- 実績：十分な成果をあげているか。必要以上のサービスにより、経費が過大となっていないか。など
- 必要性：国・都・民間での実施状況に鑑み、市が実施すべき事業といえるか。社会経済状況の変化を踏まえて実施しているか。廃止した場合に大きなデメリットは生じるか。など
- 効率性：限られた財源を有効に活用しているか。現在の実施方法が最も効率的な方法といえるか。など
- 公平性：サービス対象に問題はないか。利用者の利便性に配慮しているか。受益者負担の水準は妥当か。など
- 総合評価：各項目の評価及び類似団体等とのサービス水準の比較を踏まえた、今後の事業のあり方・方向性。
 - 拡充：ニーズの増大に対応して、事業を更に強化する必要があるもの。
 - 継続実施：現状水準で事業を継続していくもの。給付対象者の自然増減に伴いコストが増減する場合を含む。
 - 改善・見直し：現在の仕組みを前提としつつ、実施方法の見直しなどにより改善を図るべきもの。
 - 抜本的見直し：事業の委託化や一部廃止など、事業の仕組みを含めた根本的な見直しが必要なもの。
 - 廃止・休止：事業を休止又は廃止するもの。単年度事業など、終了が確定しているものを含む。